

## 総合リハビリテーションセンター病院部門が担う政策的医療について

## 高次脳機能障害者支援

- ・ 「高次脳機能障害」は、事故や疾病の後遺症により記憶障害、注意障害、社会的行動障害などが生じ、日常生活及び社会生活の適応に困難を有するという特性があり、不採算医療であることなどから、民間病院では対応が難しい。
- ・ このため、リハビリテーションセンター内に設置している「高次脳機能障害者支援センター」において、高次脳機能障害者のための支援拠点として相談内容に応じた助言や情報提供及びセンター内の各部門が連携し、相談、訓練、就労支援を進めるとともに、引き続き専門外来枠の拡大などに取り組む。

## 【参考】

※週に2日、高次脳機能障害専門外来を設置

※平成30年度の新規外来患者数は85人

## 《支援強化のための取組検討例》

## ○ 高次脳機能障害者の自動車運転に関する検査、訓練、評価の充実

高齢ドライバーによる自動車事故が社会問題になっている。高次脳機能障害者についても自動車運転の可否の適切な評価が求められる。また、高次脳機能障害の安全運転確保のうえでの運転再開を支援していく必要がある。このため、実車評価を含めた自動車運転に関する検査、訓練、評価の充実を図る。

## 脊髄損傷者支援

- ・ 「脊髄損傷」は運動機能や感覚機能などに障害が生じ、重度の後遺症が残る可能性が高い。自律神経がうまく働かず体温調節が困難になることや、排尿、排便がしにくくなることがある等の特性があり不採算医療であることなどから、民間病院では対応が難しい。
- ・ このため、引き続き脊髄損傷患者を積極的に受け入れ、残された機能を最大限に生かした適切なリハビリテーションの提供に取り組む。

## 【参考】脊髄損傷者の常時受入患者数

	H29 年度実績	H30 年度実績	R1 年度目標
常時受入患者数	5.5 人	11.3 人	6.75 人

## 《支援強化のための取組検討例》

## ○ 在宅療養患者への支援

病院退院後に在宅療養している脊髄損傷患者に対し、障害者病棟への一定期間の入院により、身体機能強化から、補装具及び住宅改修の助言指導、本人・介護者への在宅療養・介護に必要な知識の助言指導、家族の介護負担軽減まで総合的な支援を行う。

## 難病患者支援

- ・ パーキンソン病の患者数は 10 万人に 100 人～150 人と言われており、高齢者で多くなることから、人口の高齢化に伴い患者数が増加することが見込まれている。
- ・ しかしながら、脳深部刺激療法（DBS）などの先進的外科手術ができる病院は全国的にも少なく、当センターを含めて埼玉県内には 3 施設のみである。
- ・ このため、引き続き脳深部刺激療法（DBS）などの先進医療の提供を行うとともに難病患者の積極的な受入れに取り組む。

### 【参考】難病患者の常時受入患者数

	H29 年度実績	H30 年度実績	R1 年度目標
常時受入患者数	18.65 人	19.6 人	20.15 人

※H27 年度から脳深部刺激療法による手術を導入し、これまでに 60 件の手術を実施

#### 《支援強化のための取組検討例》

##### ○ パーキンソン病患者への訪問看護の実施

パーキンソン病患者数は増加傾向にある。高齢化も進んでおり、通院が困難な患者も生じる。このため、新たに訪問看護を実施し、パーキンソン病患者への支援を強化する。

##### ○ 神経難病患者の意思伝達装置スイッチ適合入院

神経難病患者の症状の進行に合わせた意思伝達装置のスイッチの選択から訓練の提供までを行える機関は少ないため、スイッチ適合を目的とした入院プログラムを新設し受入れを行う。

## 回復期リハビリテーション

- ・ 今後ますます増加することが予想される回復期リハビリテーションに対するニーズに対し、引き続き民間病院とともに地域医療の一翼を担う。

### 【参考】

#### ○ 県央区域の回復期病床数の状況（県地域保健医療計画）

平成 31 年 4 月現在病床数 260 床…①

令和 7 年必要病床数推計 1,120 床…②

②－①＝ ▲860 床

#### 《支援強化のための取組検討例》

##### ○ 民間病院では処遇が困難な患者の受入れ

FIM（機能的自立度評価表）の点数の低い重症患者など、民間病院では処遇が困難な患者の積極的な受入れに取り組む。